



## きずぐち 傷口などにはできる「うみ」は、ばい菌の死がいなの

### 「うみ」は、はっけつきゅう し 白血球の死がいのかたまり

けがなどをしてきずができると、きずぐちからばい菌はいってしまうことがあります。すると、けつえきちゅうのはっけつきゅうなどが、ばい菌を退治するために、傷口のまわりに集まり、ばい菌と戦います。ばい菌と白血球などが戦っている間は、傷口のまわりは赤くはれて、痛みがあります。

そして、はっけつきゅうがばい菌を食い殺してしまうころには、白血球も死んでしまい、白血球の死がいのかたまりができます。それが「うみ」です。

### きずぐち 傷口がずきずきするのは

けがができると、ち血はすぐにかたまっかかさぶたをつくり、傷口をふさいで出血を止め、ばい菌などがはいつてきたりするのをふせつぎます。次に、傷口から入ったばい菌などを殺すために、白血球などが集まり、傷が化のう(うむ)するのをふせつぎます。そして、傷口をなおしてもとどおにするために、ひふはあたらしいさいぼうをどんどんつくるのです。

けがをしてきずができると、きずぐちがずきずきするのは、きずぐちひなかの傷口の皮ふの中で、けがをなおそうと、いろいろなものがはたらいっているためです。

また、ひふのすぐしたには、いたさを感じるしんけいがたくさんあるので、きずぐちがずきずき痛かったり、いたかる痛みの軽いときには、むずがゆかったりするので、(監修・保志 宏)

